

「個別公共事業の評価書－平成22年度－」の正誤表

頁	正										誤									
	事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト削減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト削減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)
				便益の内訳及び主な根拠	費用:C (億円)	B/C								便益の内訳及び主な根拠	費用:C (億円)	B/C				
94	国営吉野ヶ里歴史公園 九州地方整備局	再々評価	357	2,003	1,053	1.9	・我が国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るための開闢の決定を経て設置された公園である。吉野ヶ里遺跡は、弥生時代のクニの姿を明らかにし、600年間の弥生時代からの流れを伝えることと重要な遺跡であり、その遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示などの遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感出来る場を整備している。 ・開闢当初からの累計入園者は平成21年度末に約500万人を突破し(年間入園者数は約60万人前後)、周辺地域の観光客数の増加にも寄与している。 ・数多くのイベントや体験学習プログラムが行われており、九州・沖縄に限らず全国からの来園者も多く、幅広い年齢層から当公園が利用され、公園全体と歴史施設のわかりやすさについて利用者の満足度は9割を超えている。	・平成24年度末に、供用開始を予定している「古代の森ゾーン」においては、弥生時代に暮らした人々と森との関わりを伝える場としての整備と南北600mに及び国内最大級の長大な墓列を復元整備を行う。この整備を継続することで、既に開闢している環境集落と一体的な周遊コースを形成でき、吉野ヶ里のクニ全体の様子を体感でき、公園の更なる機能向上が期待される。 ・園内で発生した草本や枯損木等の植物発生材を全て堆肥化やチップ化し、処分費及び堆肥・マルチング材の購入費の削減を図っていく。また、関係地方公共団体、住民等と連携を図りながら効果的な整備を実施していく。	継続	都市・地域整備局公園緑地・景観課(課長 小林 昭)	国営吉野ヶ里歴史公園 九州地方整備局	再々評価	357	2,068	1,056	2.0	・我が国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るための開闢の決定を経て設置された公園である。吉野ヶ里遺跡は、弥生時代のクニの姿を明らかにし、600年間の弥生時代からの流れを伝えることと重要な遺跡であり、その遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示などの遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感出来る場を整備している。 ・開闢当初からの累計入園者は平成21年度末に約500万人を突破し(年間入園者数は約60万人前後)、周辺地域の観光客数の増加にも寄与している。 ・数多くのイベントや体験学習プログラムが行われており、九州・沖縄に限らず全国からの来園者も多く、幅広い年齢層から当公園が利用され、公園全体と歴史施設のわかりやすさについて利用者の満足度は9割を超えている。	・平成24年度末に、供用開始を予定している「古代の森ゾーン」においては、弥生時代に暮らした人々と森との関わりを伝える場としての整備と南北600mに及び国内最大級の長大な墓列を復元整備を行う。この整備を継続することで、既に開闢している環境集落と一体的な周遊コースを形成でき、吉野ヶ里のクニ全体の様子を体感でき、公園の更なる機能向上が期待される。 ・園内で発生した草本や枯損木等の植物発生材を全て堆肥化やチップ化し、処分費及び堆肥・マルチング材の購入費の削減を図っていく。また、関係地方公共団体、住民等と連携を図りながら効果的な整備を実施していく。	継続	都市・地域整備局公園緑地・景観課(課長 小林 昭)